



「尚徳」12月号 第603号 令和4年12月22日

鳥取大学附属小学校 学校便り

<https://sho.fuzoku.tottori-u.ac.jp/>



題字「尚徳」は、住川英明 地域学部教授 (元校長)

## この1年を振り返って

校長 山下博樹

年の瀬を迎え、この1年を振り返ってみました。まずはコロナ禍も3年目を迎え、今年もここまで本校の教育活動を大過なく継続できたことに対し、保護者の皆様、子供たち、先生方のご協力に感謝いたします。この2年半で本校の行事も、25年間続いてきた韓国の春川教育大学校附設小学校との交流を中断したり、6年生の旅の学校の行き先を島根県に変更したり、鳥取砂丘への砂の学校も学年別の遠足に振り替えたりと、その時々々の感染状況を注視しながら適切に変更したり、場合によっては大幅な見直しを余儀なくされてきました。それでも子供たちに「いま」しか体験できない必要なものについては、いろいろな工夫をしながら実施できたのではないかと自負しています。他方で、秋以後は、本校でも感染や濃厚接触のために登校できない児童が多数発生しました。なかには体調が思わしくないまま登校し、その後陽性が判明するなど、健康管理・健康観察が徹底されていない状況も判明し、注意喚起をさせていただきました。引き続きご理解、ご協力の程、どうぞ宜しくお願いいたします。

子供たちに目を向けると、タブレットを使った学習も2年目を迎え、時折授業の様子を見るために各教室をのぞきに行くと、タブレットを使って学習している場面に出くわすことが昨年度より増えたように思います。本校の研究発表大会でも指導助言を頂いている放送大学教授の中川一史先生、学校訪問で授業を参観された県教育委員会の先生方からも、単にノート、カメラの代わりとするだけでなく、英語の発音チェックや子供たち同士での教えあいに活用するなど、幅広い場面で使えていることを高く評価していただきました。こうしたタブレットの活用が、子供たちの理解や学力の向上にどのように役立っているのか、あるいはタブレット使用の長時間化が子供たちの視力など健康に及ぼす影響なども、今後本校が率先して取り組むべき研究課題でしょう。

本年度も残すところ3か月余りとなりました。子供たちもこの1年のまとめとしての実りの時期を迎えます。引き続き新年もどうぞ宜しくお願いいたします。

### 新しい図書館司書の先生を紹介します

12月より新しく図書館司書の先生をお迎えしました。野間 亜紀 先生です。早速図書館業務をてきぱきとこなしたり、子供たちの話し相手になったりしています。よろしくお願いします。

#### 野間先生より

みなさんはじめまして。12月から図書館司書として働いている野間亜紀と申します。わたしは幼い頃、湖山池の近くで毎日のように遊び、成長してきました。またこの大きな池のもとに戻ってこられたことをとてもうれしく思います。みなさんと同じ年の頃には、江戸川乱歩の本に登場する、小林少年といっしょに冒険するのが大好きでした。みなさんはどんな本が好きですか。これから何を学びたいですか。みなさんに聞いてみたいことがたくさんあります。これからよろしくお願いします。

Google ドライブは、Google 保護者アカウントへのログインが必要です。Google フォームは、ログインの必要はありません。ログインの方法等ご不明の場合は、学校に電話連絡をお願いします。



Google ドライブ  
学校配付文書



Google ドライブ  
各学級フォルダへ



欠席・遅刻連絡  
Google フォームへ



※コロナ関連(感染、濃厚接触者等)以外の欠席連絡は、Google フォームをご利用ください。

※Google ドライブの各学年フォルダは、お子さんが欠席され、翌日の連絡を「Google ドライブ」を希望された場合に入力します。放課後の業務等により、入力が遅くなる場合がありますが、ご了承ください。

## 学校の様子

### \*\*\* 委員会活動 \*\*\*

ワールド委員会では、給食時間に放送で国際理解につながるクイズを出したり、掲示をしたりしています。12月はクリスマスの時期でもあり、クリスマス関係の掲示を作りました。活動を通して全校に世界の色々な国のことを知ってもらおうと活動をしています。



### \*\*\* キャリアに拓く \*\*\*

大学の学部や研究機関、地域の施設等と連携して学びの場をつくり、子供のキャリア形成を目指していく活動、「キャリアに拓く」の学習が進んでいます。学年ごとの活動の様子を紹介します。



1年生は身近な鳥取大学の見学をしました。地域学部と農学部の4人の先生にお話を伺い、習字や赤ちゃん人形を抱く活動、砂丘の砂を使った実験、ゲームを通したコミュニケーション作りなどを体験させていただきました。



2年生は農学部の先生の授業に参加させていただきました。先生が地域貢献事業で実施した「トロハタ」開発についてや、「生産者（農家）」、「流通業者（八百屋）」、「消費者」のそれぞれの役割について教えていただきました。



3年生は農学部の先生に湖山池の歴史や鳥取砂丘の自然現象についてお話をさせていただきました。答えが1つではない課題に向かって粘り強く探究をしたり、人に伝える力をつけたりすることの大切さを教えていただきました。



4年生は留学生や、留学生と関わっておられる先生の話をお聞きしました。先生は、自分のため、人のため、社会のためを大切に仕事をしておられ、よりよい未来に繋がるようにと研究をなさっていることを学びました。



5年生は医学部に行き、医学部や附属病院の取組みについて学びました。内視鏡や聴診器を実際に使わせていただいたり、車椅子や逆さ眼鏡を使っているいろいろな活動をさせていただいたり貴重な体験となりました。



6年生は工学部の2つの学科を訪問しました。化学バイオ系学科では、研究室、実験室の見学とスライム作り体験を、電気情報系学科では、プログラミング体験と電子回路制作体験を行いました。

## 「実りの学校」日程のお知らせ

各学年が「キャリアに拓く」の学習を含む生活科や総合的な学習の時間で学習したことを発表する「実りの学校」を、次の日程で開催します。いずれの学年も午後の開催を予定しています。詳しい内容は1月にご案内します。なお、年度当初配付した年間行事予定とは日にちを変更しています。

1年生	2月2日(木)	2年生	2月3日(金)	3年生	2月6日(月)
4年生	2月7日(火)	5年生	2月8日(水)	6年生	2月9日(木)



9月29日(木)に今年度5回目、11月21日(月)に今年度6回目となる校内授業研究会が行われました。9月29日の授業には鳥取市の先生の参観もありました。

5回目は図画工作科の授業を行いました。研究会の協議では、授業の中に一人一人が個別に創作を進める場面と、グループで作品を制作する場面があり、今回は特に協働的な学びについての話を深めることができ、どのような意識をもって子供たちは協働的な学びに向かっていくのかについて深い話し合いが行われました。

6回目は国語科と生活科の授業を行いました。研究会の協議では、授業の中で個別最適な学びを意識することで、子供たちが課題・教材に没頭する姿が多く見られるようになったことが挙げられました。またICTの使い所がポイントになることなどの議論があり、個別最適な学びの具体的な姿が少しずつ明らかになってきました。

### 《図画工作科》

図画工作科の研究テーマは、「試行錯誤を通して自らを高めようとする子供を目指した授業づくり」です。今回、1年生で「おって たてたら」の学習を公開しました。この題材は、紙の立て方や切り方を工夫してつくりたいものをつくる学習です。子供たちは紙の立たせ方にも色々な折り方があることを発見し、試しながら折って立ててつくることを楽しんでいました。また、「色、形」も図画工作科の大切なねらいです。一人一人が、つくりたいもののイメージに合わせて画用紙の色や大きさを選んでいました。最後は班で1枚のボール紙に作品を並べました。友達作品から発想を広げて背景を描き加えたり、つくり足したりして、動物園や賑やかな町などが出来上がりました。これからも、失敗や工夫を繰り返して試行錯誤していく中で、個の学びが高まっていく授業づくりに取り組んでいきたいと思えます。



### 《国語科》

国語科では「言葉でつなぐ魅力的な場の創造を目指した授業づくり」をテーマに研究を進めてきました。教材としてスピーチを扱った10月の研究大会に続いて、11月はパラリンピックについて興味をもったこと(競技や歴史)を題材に、図書資料から調べて分かったことをリーフレットに要約して書く学習に取り組みました。公開学習で子供たちは、作品(リーフレット)の交流をすることを通して書き方の工夫を考えました。この学習ではICT機器の特性を生かし、作品を電子書籍のようにデータ化しました。このことによって子供たちは、自分のペースで作品を読み進めたり、参考にしたい作品を自分の作品と比較したりする姿が見られました。タブレットを使うことでどんな学び方ができそうか、教師が提示しない学び方も考えて学習に取り組む場面も見られるようになっていきます。自分の考えを書くことも、タブレットで入力することも、どちらも大切な力だと思っています。アナログとデジタルの融合を意識しながら、子供たちが自分に合った学びを身に付けられるよう今後も指導していきます。



### 《生活科》

今年度は、「探究的な学習」、「個別最適な学び」、「協働的な学び」の3つの要素を有する学習活動を構成し、子供の学びにどのような深まりや広がりが見られるのかを探っています。

研究授業は、「見つけたあきでつくってあそぼう」の学習を公開しました。これまでに、戸外での秋見付けや秋遊びをし、身近な秋の自然にふれてきた子供たち。「秋遊びのお店にしたい」という計画を立て、この日は友達と遊びづくりを進めました。ワークスペース、教室などそれぞれの場所で、自然物や素材を選んだり、調べたり、つくったりと限られた時間の中、自分で活動を選択しながら進めました。途中で、友達の「もっとこうしてみたら?」というアドバイスを受け、遊びを工夫する姿もたくさん見られました。

生活科では、学習の計画(内容や時間など)を立てる、活動や使用するものを選択する、友達とやりとりしながら進めるなど、一人一人がより探究的に、自立して活動する姿を目指しています。そして、生活科は1年生にとって全ての学びの中心となる大切な教科です。今後も研究を重ね、一人一人の学びを支えていきたいです。

